

平成30年9月1日

役員会議事録

概要：四葉会新体制発足後、約1年が経過する（準備期間を含め、約2年）。今回は会則の見直しを含む会の運営体制の見直しを行い、今月に控える総会、10月からの新年度へ向け、調整を行う。また、現在、本会ではいくつかの事業が行われているが、これについて継続、廃止の議論を行った。

審議事項：

- ・会則の見直し
 - ・事業の定義、フロー、規約
 - ・会計の定義、フロー、規約
- ・事業の継続、廃止について

会則の見直し：

提案：

前回の総会において、新会則、事業案、予算案の承認を受け、四葉会**新体制**が本格的に発足した。約一年間の活動を経て、いくつかの問題点が浮き彫りとなった：

- ・会則の定義、位置付けの曖昧さ
- ・事業、会計の位置付けの曖昧さ

まず、会則について述べていく。

現在施行中の会則には**定義**がない。会を定義し、会の活動を定義するのが会則と考え、会則の作成を行ったが、会則自身の定義が行われていないため、会則の効力が曖昧となり、結果として会則と実際の会の運営が乖離してしまったと考えられる。

そこで改めて今回、**会則の定義**、**会則の目的**、**会則の効力の範囲**を定義したい。また、後述する、会の運営の行為である、事業、会計について、新たに**規約**という形で定義、目的を定義することで、会則をその上位規則としたい。

改定案の概要をここに示す（詳細は会則改定案を参照のこと）：

・会則の定義：

本会則は東京都立科学技術高等学校同窓会『四葉会』（以下本会と称す）を定義し、その実際の運営に関わる『規約』が従うべき内容について定義するものである。

・会則の目的：

本会則は本会の定義（目的、内容）を明確化し、運営を円滑に行う為に定められるものである。

・会則の効力の範囲：

本会則は会員が本会の名の下行う全ての活動に適用されるものとする。

次に事業、会計について述べていく。

本会では、短期集中講座開講、研究会開催など、いくつかの事業が実際に行われている。しかしこの事業の位置付けは現在曖昧で、総会で承認されたのち、どのような過程を経て実施、中止が決定されるのか、また、全ての事業は総会で承認されなければならないのか、また、そもそも事業の定義、目的など、曖昧なものとなっている。そこで事業を定義、事業のフローを取り出し、それを定義する形で規約を作成したい。以下に規約の作成案を示す：

・事業の定義：

事業とは本会の目的を達成するために行われる行為の内、『役員会』、及び『総会』で承認されたものをいう。但し、新規事業については役員会で承認を行い、事業の継続、廃止については総会で承認を行うものとする。

・事業のフロー：

1. **提案書**の提出（事業名、目的、計画、予算案）
2. 役員会の承認
3. 事業の実施
4. **報告書**の提出（実施状況、目的達成状況、計画達成状況、決算）
5. 次年度、継続、廃止案の承認（役員会による）
6. 5.で決定した継続、廃止案の承認（総会による）（継続の場合3.に戻る）

・会計の定義：

会計は、会費などの収入の中から、会則に則った用途の運営費、事業費の支出を行い、収支を管理する。また、決算報告を行う。

・会計のフロー：

1. 申請者が会計に支出の申請
2. 会計が申請を確認、承認。但し、予算を超える支出に対しては役員会を開催し、予算の調整を行う
3. 申請者は支出後、領収書を提出。会計はこれを受けて出納帳への記録を行う

結果：承認

事業の継続、廃止：

概要：

現在、本会では以下の事業が（計画中を含め）行われている¹：

・ 文化祭『四葉会賞』設置：

現在準備中。来年度以降、実施予定である。

・ 部活動、研究活動支援：

学校側との協議の結果、実現が難しく、未実行。

・ 部活動 TA 補助金：

HP において広報活動中。但し、応募者 0。事実上未実行。

・ 短期集中講座支援：

今年度、2 回短期集中講座を開講し、講演を行った。

・ 課題研究支援：

学校側との協議の結果、実現が難しく、未実行。

・ 研究会の開催：

昨年度 3 月『四葉研究交流会 2018』を開催した。

・ 研究資料共有データベース『ST リポジトリ』設置：

現在準備中。

・ 開校 20 周年記念行事：

協議、準備中。学校側と協力し SSH 実態調査アンケートを行った。

提案：

実際に活動（議論中を含め）が行われている項目には下線を引いた。活動状況を鑑み、改めて事業の定義が行われた今、改めて事業

- ・ 文化祭『四葉会賞』設置
- ・ 部活動 TA 補助金
- ・ 短期集中講座支援

¹ 内容は <http://st-yotsubakai.jp/projects/>を参照のこと

- ・研究会の開催
- ・研究資料共有データベース『STリポジトリ』設置
- ・開講20周年記念行事

を継続とし、

- ・部活動、研究活動支援
- ・課題研究支援

を廃止とする。但し、廃止事業については別途、『**在校生支援事業**』という形で実現可能な事業として再提案される予定である（現在学校側と協議中）。

結果：承認